

《担当者名》歯学部教授 / 飯田 貴俊  
 歯科衛生士 / 植木 沢美

【概要】

口腔解剖学・口腔機能学・口腔生理学・小児歯科（口腔機能の発達）・高齢者歯科（介護保険の介護予防：口腔機能向上）領域での口腔機能に関する総まとめを行う。

【全体目的】

超高齢社会日本においては、高齢・様々な疾患による口腔機能の低下が「食べる」、「話す」ことに障害を来し、結果として栄養障害（低栄養：やせすぎ）、誤嚥（性肺炎）、窒息、コミュニケーション障害が生じ、高齢者のQOL（生活の質）の低下を招いている。このような生活の質の低下の予防のために介護保険において介護予防において歯科と関連する領域として口腔機能向上が取り入れられた。

このような日本の現状を反映して国家試験において、口腔機能に関する基礎と上記に関連する臨床科目において多数の試験問題が出題されるようになった。国家試験に出題されるレベルの口腔機能に関する基礎と臨床科目の問題を正しく解答できることを目的とする。

【学修目標】

歯科衛生士に求められる摂食・嚥下に関わる構造と機能および発達と障がいの知識を復習するため、

- 口腔、咽頭、喉頭の構造を説明する。
- 摂食・嚥下の運動に関わる骨格筋を説明する。
- 口腔機能の概略を説明する。
- 摂食・嚥下機能を説明する。
- 摂食・嚥下機能の発達を説明する。
- 摂食・嚥下障がいの症状を列挙する。
- 摂食・嚥下障がいのスクリーニング検査を説明する。
- 口腔ケアを説明する。
- 介護保険の口腔機能向上を説明する。

上記の項目に関連する歯科衛生士国家試験に出題された問題を用いた演習で総合的に知識を整理する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	摂食・嚥下に関わる解剖学的構造	口腔を構成する構造を列挙できる。 口唇、口底、頬、舌、口峽の運動を説明できる。 咽頭を構成する筋を列挙でき、運動を説明できる。 喉頭にみられる軟骨と筋を列挙でき、運動を説明できる。 摂食・嚥下に関与する筋の運動を説明できる。 嚥下のメカニズム（運動機序）を説明できる。 ○プリント配布	
2 3	国家試験や練習問題に出題された口腔機能、嚥下障がいに関連した問題の復習	・嚥下障害に関するアセスメント方法を説明できる。 ・嚥下障がい患者に行う間接訓練を説明できる。 ・嚥下障がい患者に行う直接訓練を説明できる。 ・食支援の方法を説明できる。	植木 沢美
4 5	口腔機能管理に関連する基本的知識についての復習	・口腔機能管理の基礎知識について確認する。 ・機能障がい別の対応方法について説明できる。 ・対象別の指導方法について説明できる。	飯田 貴俊
6 8	喀痰吸引実習	・歯科衛生士に必要な口腔咽頭級の方法を理解する。 ・実習	飯田 貴俊

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

卒業試験100%

**【教科書】**

歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション・医歯薬出版株式会社

**【学修の準備】**

予習：教科書および講義で配布されたプリントを整理する（30分）

復習：教科書および講義で配布されたプリント、講義内容を整理する（30分）

**【実務経験】**

植木沢美（歯科衛生士・介護支援専門員）